

北のみち普請フォーラム開催



財北海道道路管理
技術センター
理事長 木元 喬之



北のみち普請を育てる会会長
北海道大学大学院工学研究科
教授 小林 英嗣

ひと・みち・うるおい・つながり

「みんなで育てようふれあいの道」 「道の文化をとりもどそう」 「愛で育む北の道」



早稲田大学教育学部教授
宮口 侗廸
1946年富山県生まれ。東京大学大学院博士課程を修了、75年早稲田大学教育学部勤務・85年同教授。現在、東京大学講師、国土審議会専門委員、国土交通省地域振興アドバイザー、富山市都市計画審議会会長など。専門は、社会地理学、地域社会論、風土論。著書「地域づくり読本」「地域を活かす一過疎から多自然居住へ」「地域づくり創造への歩み」など。

■テーマ「みちと地域社会の進化」 宮口 侗廸 教授 講演

文明・文化を運んできた世界の道

皆さんこんにちは。今日は道をテーマにお話をさせていただきます。

まず街道の話ですが、街道を徹底的に造り、使うことで、世界に例をみない広域的な支配をとげたのがローマ帝国でした。ローマ帝国は多くの道路網を張り巡らし、必要に応じて軍団が駆けつけ物資を輸送していました。これらの道の多くは石畳をひいた堅固な道で、ローマ帝国は広域支配のために権力にまかせ、多少の山や川はかまわずにまっすぐに貫いて道をつくったわけです。

日本では江戸時代に東海道で大名行列が行き来し、あるいは江戸の市民がお伊勢参りで東海道を上っていました。江戸時代がいかに偉大な時代であったかということは、普通の人が宿場に泊まりながらかなりの確率で旅ができた、ということからもわかります。

もうひとつは街路です。私は街道と街路と、大きく分けて2つの道の分け方をしています。

南イングランドのチェスターという都市の遺構は、周囲を城壁が囲み、大きな十字路の街路があります。この十文字の真ん中には交差点があります。現在は都市の交差点は、日本では道路が行き来して通りすぎていくところですが、ローマの時代の交差点はフォルムと呼ばれたまちの広場でした。四方から人が集まってくる場所で、通り過ぎる場所ではありませんでした。現在でもヨーロッパの都市には、交差点の真ん中にモニュメントがおいてあったり、花壇があったりで自動車交通はロータリーになっています。

それから街路は、ヨーロッパのまちではまちの単位です。日本でも早稲田通り、目白通りという名前がついていますが、それは単に道の名前です。ロンドンでは同じ道の交差点を2つくらいすぎると、もう道の名前が変わります。それは街の名前だからです。

ストリートにあたる道の名前も名詞で50以上あり、それが全部まちの単位になっている。ですから道は、玄関を出て、人と人が出会うところなんです。

京都、ワシントンのまちづくり

道づくりでおもしろいのは京都です。平安京がつくられた時まちはブロック制で、街路で区画され囲まれた四角いところに宅地が割り振りされていました。しかし道路に面していないところはあまり住む価値がないので真中が空くようになり、区画内でのつきあいは薄くなる。やがて道に面しているところが一つのグループを形成するようになる。そしてそこで商業活動が盛んになるとひとつのグループを形成するようになる。これがまち通りと呼ばれるようになっていきます。

アメリカのワシントンは計画的につくられた都市ですが、こちらは重要なところが機能的に結ばれていて、斜めの直線道路が国会議事堂とホワイトハウスの間をつないでいます。これはむしろ道の移動性、人間は移動をする、それを支えるための道として造られたもので、あまりまち文化というものは意識されていません。

まちは人と人が出会うところ。そのまちにある道が都市を分断するのは、まち文化としては問題です。まだまだ日本の都市には通過交通がまちの真ん中を通るようなところがけっこうあります。そういう仕組みはまち文化の醸成を阻害するということがあると思います。

北海道民の柔軟性思考に未来への可能性を託して

日本のなかで北海道は際だった違いを持っている地域です。それは社会のできかたそのものが違うからです。たとえば北海道には大規模農家がたくさんありますが、あれは北海道が広いから大規模なわけではありません。開拓に入った時は5町歩だったのが30町歩になるには買い足したプロセスがあるから大規模なわけです。

内地の農村集落では21世紀に入った現在でも、後継者のいない農家の土地を農家ががんばるから売ってくれと言っても売らず、借地農業や集落営農というかたちをしています。隣近所でこういう話ができしたのは、日本の中で北海道だけです。

この土地譲渡の話のように、まずはやってみようという北海道式の仕組みがいまの日本には求められているのではないかと考えています。



平成15年7月23日(水) ホテルニューオータニ札幌において、北のみち普請寄合(フォーラム)が開催されました。主催者・会長のあいさつのあと早稲田大学教育学部 教授 宮口 侗迪氏に基調講演1として「「みち」と地域社会の進化」をAKC地域デザイン・歩行都市研究所 所長 村山 友宏氏に基調講演2として「車優先から人優先へ」をそれぞれご講演していただきました。



村山 友宏さん
1940年兵庫県生まれ。早稲田大学政経学部卒業、東京工業大学社会工学科研究生修了。
浜野商品研究所、北山創造研究所取締役、国土庁「地方都市中心街魅力づくり」代表などを歴任。
現在 AKC地域デザイン・歩行都市研究所所長、NPO法人日本都市計画家協会理事、(社)日本ウォーキング協会副会長、まちづくり学会常務理事、全国街道交流会議代表監事。

■テーマ「車優先から人優先へ」村山 友宏 さん 講演

かわりつつある道路政策 ～車優先社会から人間優先社会へ～

皆さんこんにちは。今日は、「車優先から人優先へ」というテーマでお話をします。

最近の都市づくりで私が驚いているのは、国土交通省が「車優先から人優先」という言葉を、堂々と政策の中で言っていることです。脳目もふらず走り続ける社会から、考えながらゆっくり歩く社会へ。経済の効率から、生活の「幸率」、つまり生活の質を時代の物差しにして時代を考え、社会を考えるという時代になったということです。

ハードや箱物だけで考えた時代から、生活の仕方、暮らし方などのソフトを先行しながらハードと一緒に考えていく展開が必要です。

次に、道路に対する要求ですが、道路政策に対する国民世論調査でも、歩行者のための道路整備をしてほしいという数字が39%出ています。

ここで留意しなければならないことは、車社会を頭から否定することではなく、修正論、つまり過度に車社会に依存する交通体系、生活体系を少し修正しようというところで具体的な解決策を見いだす必要があるわけです。

新しく造る都市部の道路は、車道、自転車道、歩道3つのレーンを設けるということが法律で義務づけられています。

それから、路面電車が最近復活して、全国で路面電車の市民運動が大変活発になっています。このときに車道路と路面電車の軌道を切り離してつくるといことも書かれています。路面電車をつくるときに、こういう法律的根拠があればつくりやすいということです。

※ QOLを考えた官民共同の道づくり

ここで、道づくりの基本思想を整理したいと思います。道路の主役は人である、人が安全に歩けることが道路の中でもっとも重要である。道路使用は、人、車、公共交通を平等に扱い、どれかが一方に偏ることがないようにしようということです。



また、道づくりは都市マネジメントであるということです。換言すればこれは都市の成長管理をするということです。都市が過度な高度成長をするだけでなく、人の生活の質を育て、それを高めていくために都市の成長をコントロールする必要があるという視点から道づくりをしていこうということです。

現代の道路施策のテーマは、国土交通省の施策の中にも、活力、暮らし、安全、環境と、4つのキーワードがはいっていますが、私が追加したいテーマは、行政、市民が共通の役割、共同の役割をもつということです。

そしてこれは重要なポイントですが、まちなかはつくるから活性化するのではなく、使うから活性化する、ということです。まちをどう使うかという発想がいま求められています。ここを避けるから結局ものづくり、ハコづくりになるんです。

道づくりと都市活性、 その意味と可能性

人が歩きたくなる道づくりの原則は「あいうえお」であらわせます。「あ」は、安心・安全のみち、「い」は憩い・癒しのみち、「う」は美しい、潤いのあるみち、「え」は円滑・エコロジーに配慮したみち、「お」はおもしろく楽しい道ということです。これをふまえた「車優先から人優先」への筋は、大きく2つあります。ひとつは、人に優しい交通体系で歩行者優先です。もうひとつは環境に優しい交通体系です。エコロジーを考え、環境負荷が少ない交通体系をできるだけ選ぼうということです。

私は遊歩街区という言葉を使っていますが、遊歩街区は、遊歩者が主体の町中の生活舞台です。いまこれを構造改革特区に具体化できないかということ国土交通省の担当者にも話しているところです。

それから、道の駅は全国各地にできて地域活性に役立っていると思いますが、あれはどちらかというと自動車道路にできている。私が最近言っているのは、歩く道の駅を提案していて国土交通省に提案したところ、これはすぐ社会実験としてできそうだと好感触を得ています。これは既存の施設を利用して、歩く人の休憩施設や、地域のさまざまな情報案内の施設、昼食、防災拠点などの整備を充実させるということです。このような歩く道の駅も全国に展開していこうと考えているところです。

※QOL=生活の質 (quality of Life の略)